

# 月報 シオン山

2023年10月1日発行 (No397)

\*\*\*\*\*

## 日本バプテストシオン山教会

☎803-0846 北九州市小倉北区下道津2-15-21

Tel(093)561-0772 Fax(093)561-0760 E-mail:bapshion@eagle.ocn.ne.jp

\*\*\*\*\*

### 【月間聖句】

目を高く上げ、誰が天の万象を創造したかを見よ。それらを数えて、引き出された方それぞれの名を呼ばれる方の力の強さ、激しい勢いから逃れうるものはない。

(イザヤ40章26節)

### 互いに愛し合う

二木榮子

今年初め1月4日、突然立つことも歩くことも出来なくなり救急車のお世話になることになりました。時は新型コロナウイルス第8波のただ中、行きつけの病院はコロナ患者対応のため引き受けてもらえず、先日お世話になった病院で入院となりました。

昨年末、車のついた椅子に座ろうとして座りそこない転倒し、仙骨骨折をしたばかり。その時も救急車のお世話になりましたが、何とか自宅に戻り、用心しながら過ごしていたのですが、こんな状態になるとは考えてもいませんでした。突然のことで、手の届く範囲にあった薬とバッグだけを持って行くことになりました。

最初は先日痛めた仙骨骨折によるものと診断されていましたが、腰から足先にかけての激しい痛みがずっと継続しており他の病気が模索されました。約1ヶ月後、病名は脊柱管狭窄症だとわかりました。この1ヶ月の間、ベッドに寝たまま、食事も中身が分からないままいた

だく状態でした。この時、目で見て食べることが如何においしさに影響するか知らされました。

この入院の間に、人とのかかわりの大切さ、ありがたさを実感することになりました。

ほとんど何も持たずの入院、しかも自分では動くことができない。すべてをお任せするしかありません。幸い今の病院では、病衣、肌着、おむつなどレンタルで借りることができます。(費用は医療費とは別扱い) さらにこれらを借りるとコップ、箸・スプーン・フォーク、歯ブラシ・歯磨き剤などは無料でつけてくださる。そのような訳で当座は困ることはあまりなかったのですが、コロナ感染のただ中で面会も許されず、最も寂しかったのは友人との交わりができないことでした。同じ部屋の方とは個人情報のこともあり、話すことは限られていました。

そんな時、一番に連絡をくださったのは教会員の方でした。その方法は各種で、聖句やお見舞いの葉書、メールで慰めの言葉や動画を送ってくださる方、電話をかけてくださる方、週報などと共に本やお菓子など差し入れしてくださる方、そして目には見えなくても篤い祈りを捧げてくださる方々、伊藤牧師は聖書を教会から持参して下さったり、週報なども届けていただきました。本当にありがたく、教会での交わりのすばらしさを感じずにはいられませんでした。

また、寂しくてなんとなく電話した西南女学院短期大学時代の同僚は「退職後も続いている同僚に知らせてもよいか」との同意を得た上で皆に連絡して下さったようで、それぞれから電話や、メールが時をずらして送られて来ました。思いがけないことで涙が出ました。さらに、課題提出まではほぼ週1度会っている書道教室の同じクラスの方2名は LINE を使って途切れることなく教室の様子や二人の近況など連絡して下さり慰められました。

日頃は日常会話ぐらいしかしていなくても、このようなことが起こると何かれと配慮してくださる方がいることはほんとうにありがたいことです。

イエスさまは新しい掟として「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい」・・・ヨハネによる福音書13章34節b と言われています。

たがいに愛し合うという時、「わたしがあなたがたを愛したように」という基準があります。私であるイエスさまのことを知っている方はよく理解できると思いますが、とっさの時にそれが実行できるかというと厳しいものがあります。一方、イエスさまを知らない人は自分たちの思いで行動しています。要は、突然の時、行動できるかということ、特に心に寄り添うことはそんなに簡単にできるものではありません。心からの感謝しかありません。私自身もこのように心から相手を愛し、行動できる者でありたいと願っています。